



久賀島の集落

旧五輪教会堂(写真中央より右の白い屋根の木造建物)と五輪教会堂(右端)が立つ五輪集落(蔵地区)。旧五輪教会堂は、小規模な木造の民家のような外観と装飾の少ない礼拝空間(祭壇)を持つ、初期教会建築の代表例とされている

島の未開地に移住して築いた集落

五島列島最大の福江島から連絡船で約20分の^{ひさかじま}久賀島。この島には、18世紀末から五島藩の開拓移民政策により、大村藩(主に外海地方)の潜伏キリシタンが移住しました。在来の仏教集落から離れた場所に集落をつくる一方、仏教集落の住民と漁業や農業などを共に行いながら、ひそかに自らの信仰を続けました。

大浦天主堂での信徒発見後の1868年、久賀島の信徒は禁教政策に逆らい信仰を明らかにしたことで牢屋の^{ろうや}窄事件が起き、「五島崩れ」のきっかけとなりました。それでも、信徒たちは弾圧を乗り越えて信仰を守り抜き、解禁後はカトリックへ復帰して、各集落に教会堂を建てていきました。このことは、久賀島の潜伏キリシタンの信仰継続の伝統が終わりを迎えたことを象徴しています。久賀島に初めて建てられた浜脇集落の初代教会堂は五輪集落に移築され、旧五輪教会堂として現存しています。



牢屋の窄殉教記念碑

1868年に起こった牢屋の窄事件の舞台となった牢屋跡近くに建てられた記念碑。捕らえられた信徒200名余りが6坪ほどの牢屋に8か月間閉じ込められ、子どもを含む42名(牢中は39名)が死亡。石碑には殉教した一人ひとりの名前と年齢、殉教時の言葉や様子などが記されている

県では、皆さんからの寄附をもとに構成資産の修復や耐震対策などの事業へ助成します。ご協力をお願いします。

長崎県 構成資産へ寄附 検索

問合せ 県の世界遺産登録推進課 ☎095-894-3171

長崎から世界遺産を 検索

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産を訪ねて
密かな信仰の証
10 久賀島の集落
(五島市)